

夢を追い続け… より高く… より美しく… 第41回
埼玉女流工芸展特集
そして出発号

招待審査員 審査講評
第42回展おしらせ

みずみずしい緑一色の季節の中で第41回埼玉女流工芸展は盛大に開催されご後援ご支援頂きました多くの皆様に心より厚く御礼申し上げます。昨年40周年の節目を経て、心新たな出発として取り組み、このたびも大きく創作の喜びをメッセージする事ができました。日本の四季が育む繊細なものづくり文化が世界的にも高く評価される今日、オリンピック、パラリンピックを迎える2020年に向かって飛躍的な発展が期待されております。次回第42回展テーマは「和・なごむ・やわらぐーそれぞれの祈りの形」。日々の暮らしの中で、ふと聞こえる風のささやき、大自然が彩なす光と影の中で想像と創作の翼を広げ、夢を力として歩んで参りましょう。

会長 滝沢布沙

NO. 31

公開講評会

上田知事をお迎えして

埼玉県女流工芸作家協会

<http://joryukougei.jp>

SAITAMA LADIES KOUGEI ASSOCIATION

第41回 埼玉女流工芸展審査評 平成

樋田豊郎

東京都庭園美術館館長
秋田公立美術大学理事長兼学長



明治の輸出入工芸図案
楽浪漆器 東アジアの文化をつなぐ漆工品

豊福 誠

東京藝術大学美術学部工芸科陶芸教
日本陶磁芸術学会会長
日本工芸会正会員



色絵面取り鉢

「歴史をよく学んでいるなあ」。これが、審査会場を一覧したときの第一印象でした。歴史といっても、専門的な話ではありません。私たちの祖先が積み重ねてきた、暮らしの「営(いと)み」です。それに共感し、そこからなにかを受け継ごうとする気持ちが、作品から伝わってきました。

よく、芸術は「個性の表現」だといわれますが、それが「人との違いを際立たせる」ことをいっているのだとしたら、私はそんな違いなんか自己満足だと思います。むしろ価値があるのは、仲間と共有できる「美しさ」や「心の愉悦」を表現することの方でしょう。

たとえば作品の題名には、《雲居のオリオン》、《棚田》、《早春賦》、《朝がきて》などの言葉が並んでいました。これらはどれも、人間の営みが自然と交流しながら培ってきた抒情です。でも、みなさんその叙情が平凡にならないように工夫をしていました。そう、営みから生まれた抒情に独自の解釈を加えること、これが個性の表現なのでしょうね。

埼玉県知事賞 ①染織「縫取織着物 雲居のオリオン」 一見すると着物に刺繍で模様を施しているようですが、実はそれらは織り出されています。「縫取織」です。高い技術が天空のオリオンと庭のスマイレに「品格」を与えています。

高澤英子記念賞 ③染「花」 水仙の花を「臈染め」の技法で表した作品である。葉やつぼみが絡み合う構図は、毎日観察してただけあって真に迫るものがある。背景の淡い色が、水仙を生かしている。

埼玉県文化団体連合会賞 ⑥染織「波紋」 水の波紋が「型染め」の技法で表されている。ギザギザしながら広がっていくデザインが、ただ美しいだけではない。不思議な「連続と切断」のイメージを生んでいる。

埼玉女流工芸作家協会賞 ⑧染「祈求(ひたすら願うこと)」 中央に吸い込まれていく螺旋が、「浮遊感」を漂わせている。ひたすら祈るとは、こういうことなのか。ベネチアガラスの「レース模様」に着想を得た染の作品。

FM NACK5賞 ⑬織「水に棲む月」 水面に映ることによって、月がまるで「未知の生物」になったかのようなのである。制作には、「板締め緯緋り、綾織り」などの技法が混合されている。

朝日新聞さいたま総局賞 ⑮ガラス「朝がきて」 器物は軽ければいい、というものではありません。手が感じる「心地よい重さ」も重要です。重厚感と、朝を迎えるときの「柔らかな心模様」が、不思議に調和しています。

奨励賞 ⑨刺繍「棚田」 棚田を縁取る刺繍が美しい。そこに深みを与えているのが、「ステッチ」で表された稲穂の連なりです。「微妙に色の違う糸」を使い分けたことで、奥行きができました。

毎年、新緑の美しい、爽やかな季節に開催される女流工芸展の審査にあたらせて頂き光栄に思います。今年も埼玉近代美術館のある北浦和公園の木々の縁が、美術館の窓に美しく映える中、審査会は開催されました。

「埼玉女流工芸展」は女性らしい感性豊かな作品とジャンルの幅広さが特徴の展示会です。これまでも数回、審査に携わらせて頂きましたが、その度に感じられる技術の向上と完成度には、目を見張るものがあります。今回も多くのお秀作に出会う事ができました。又、お若い方の活躍も見受けられ協会の今後の増々の発展を期待いたします。

埼玉女流工芸大賞 ②藤「樹皮と藤の美」 二種類の蔓(藤とぶどう樹皮)を巧みに組み合わせて器状に仕上げた作品です。ゆったりとしたしなやかな作品から、森の中の木漏れ日をイメージしました。豊かな感性の秀作です。

埼玉県議会議長賞 ④陶「ゆらぎポット」 「ゆらぎとは秩序ある美しさである。」「ポットという日常の風景にさえゆらぎは展開され得る。」と作者のコンセプトの一部にあるように、作品に対する作者の強い思いが表現された秀作です。小品ではありますが、密度と完成度の高いポットの姿を借りたオブジェからは、作者の造形力と想像力を感じさせられました。

さいたま市長賞 ⑨陶「凜として」 女性のトルソーをモチーフにした花器です。紐作りによる成形には、作者の形に対する強い思いが込められ美しいラインに仕上がっています。大胆にそしてバランスよく切り取られた口造りにも作者の造形力を感じます。丁寧に施釉された釉調も美しく、細部まで神経の行き届いた秀作です。

NHKさいたま放送局賞 ⑪陶「花鳥文器」 紐造りにより成形した器に花鳥文様を下絵付け技法で、表現した作品です。成形の段階から絵付けの構図を意識した型にはまらない造形と繊細で巧みな絵付けに魅力を感じます。

テレ玉賞 ⑫陶「かきおとし流文花入れ」 ロクロ成形してから、六角に変形面取りした、成形技術に優れた大作です。器の外側に化粧土を流し掛けし、掻き落とすと下絵付けで水の流れを表現しています。器の大きさや紋様のバランスや形と絵付けの調和のとれた秀作です。焼き締め部分の土の色が、もう少し鉄分の強い色にすると完成度が更にます事と思います。

読売新聞さいたま支局賞 ⑰織「野蚕の帯」 野蚕の自然な色を生かして、染めずに緯糸に用い、二種類の経糸で織り上げた作品です。柔らかな自然の色合いと、織りの醸し出す美しい風合いの気品溢れた秀作です。

奨励賞 ⑳染「早春」 上田紬の布を使って絞り染めした着物の作品です。洗みのある茶色で染め上げた地色が、しっとり落ち着いた雰囲気全体に漂わせています。細かな絞りで表現された梅と松そしてパターン化された紋様がバランスよく配置され、纏う事が楽しくなる様な作品です。



田口 義明

日本工芸会正会員漆芸部会常任理事
沖縄県立芸術大学非常勤講師
東北芸術工科大学非常勤講師



乾漆細高蒔絵「宇宙」

第41回、女流工芸展の審査を通して感じたことですが、昨年の創立40周年記念展での精神力に挑戦し充実した結果を出された印象が強くありましたが、今年は、全体的に作品が少しおとなしく感じられました。しかし、女性の持つきめ細やかさ、斬新なアイデアなどが随所に見られ感心致しました。毎年行われる埼玉女流工芸展では受賞者を変えながら、必ず栄誉ある受賞を受けられます。

四季を通して自然から春の穏やかさ、冬の厳しさなどを知らされますが、人に於いても調子の良い時や悪い時を否応無に経験させられます。しかし、何時、幸運が舞い降りるかわかりません。

強い信念を持ち続けながら勝ち取る気持ちで制作し、挑戦することによって感動させられる作品が来年も見られることを楽しみにしています。

埼玉県教育長賞 ⑤「やすらぎの時」 円形の大振りの鉢に葉をデザインし、木地に彫刻がされた鎌倉彫である。伝統的な鎌倉彫を踏まえながら従来とは違う大胆な色使いと彫りの強弱により葉を引き立たせ、更に全面にまこもを蒔き込み陰影が付けられて深みを与える。このことにより器体に彫られた彫刻と色漆が調和され器体とデザインが融合された作品になっています。

埼玉県美術家協会賞 ⑦「ドリーム号」 天高く空中を上昇していく、夢のある気球に取り付けられた吊りかごの部分は糸で固定されており浮いており工夫が見られる。背景にもう少し色調のメリハリを付けることで気球が強調され、より魅力的になると思われた。色や大きさの様々な布片を繊細に継ぎ合わせたパッチワークで時間と労力を惜みず、真面目に作品と対峙し作られたことを窺うことができます。

行田市長賞 ⑩「早春賦(朝)」 冬の厳しさから解放され、草木が芽吹き勢い盛んな春の始まりを、画面から元氣よく飛び出す子供を通して表現している。平面に付けられたマチエールに爽やかな色彩で満面の笑みで愛らしい子供が跳ね上がり、空に向かい右手を挙げ躍動感が見られ、身体全体で春の訪れを喜んでいる様子が良く表現されています。

毎日新聞さいたま支局賞 ⑯「悠然」 軽く弾力のある籐の特性を活かして二重編みで奥行きをだし、ゆったりとした変化のある落ち着いた造形に、黒と白のはっきりとした色分けされた色彩で亀甲綱代編みがされてある。縁回りは黒で統一し、器物全体にピリッとした緊張感を与える。現代的なデザインで纏められ、繊細で確りした技術で調和のとれた用と美を兼ね備えた作品です。

埼玉新聞社賞 ⑭「あじさい」 円形で丸みを帯びた蓋と身の合口部分に覆輪を備えた合子です。あじさいの花と葉を器物4分の3に集約し空間が作られた部分に一匹の黄色の蝶を配置した図面構成になっており、全体に変化を与えている。デザインを七宝の持つ爽やかな色調で変化を見せ、絵画的な表現で初夏を演出している作品です。

埼玉県国際交流協会賞 ⑱「ハクモクレン」 大胆であり清潔感の漂う落葉高木のハクモクレンの花を表現した木彫の作品。壁面装飾で木の板に確りとした技術で彫られており、色彩を更に探究することで、花の持つ透明感や気品がより増し、彫りの力強さと相まって更に引き立つと感じられた作品です。



祝賀会・審査員の先生方と一緒に

受賞者一覧

① 埼玉県知事賞	安部 里香	染織
② 埼玉女流工芸大賞	及川 きみ子	籐
③ 高澤英子記念賞	島田 京子	染
④ 埼玉県議会議長賞	小森谷 薫	陶
⑤ 埼玉県教育長賞	阿部 静子	漆
⑥ 埼玉県文化団体連合会賞	日向 基子	染
⑦ 埼玉県美術家協会賞	薄葉由美子	パッチワーク
⑧ 埼玉県女流工芸作家協会賞	田口 榮子	染
⑨ さいたま市長賞	金子 順子	陶
⑩ 行田市市長賞	金勝 正子	人形
⑪ NHKさいたま放送局賞	杉村 幸枝	陶
⑫ テレ玉賞	藤井 黎子	陶
⑬ FM NACK5賞	奥津 玲子	織
⑭ 埼玉新聞社賞	高梨 智恵子	七宝
⑮ 朝日新聞さいたま総局賞	吉田 晶乃	硝子
⑯ 毎日新聞さいたま支局賞	高瀬 信子	籐
⑰ 読売新聞さいたま支局賞	清原めぐみ	染織
⑱ 埼玉県国際交流協会賞	篠田 倫子	木彫
⑲ 奨励賞	高井 芳子	刺繍
⑳ 奨励賞	國歳 桂子	染

受賞者のコメント

賞を頂いて

このたびは第41回女流工芸展にて知事賞という大変名誉な賞をいただき、誠にありがとうございます。自分の制作に自信をもってとりくにさいと背中をおしていただいたように思います。日本の伝統衣裳である着物、決まった形の中に意匠によって物語や願いが込められています。身にまえば幽玄の世界へつれていってくれるような、先人達の作った着物を手本に、それを超えていくことを目指して、今後も騙ることなく真摯に制作に向き合い精進していきたいと思えます。

安部 里香

樹皮と籐の美

思いがけず、女流工芸大賞を頂き、大変嬉しく光栄に思います。今回の作品は、樹皮(山葡萄)と籐の組み合わせで、どこまで丸い形が出るか戦いでした。

数メートルの樹皮に1センチ間隔で2ミリの穴をあけ1.25ミリの細い籐で編み始めましたが、樹皮は曲がりくねっていて、無理に扱くと裂けてしまいます。時間をかけ、今までの経験を生かし、何とか作り上げる事ができました。

物作りには、感性、技術、素材等、沢山の条件が必要とお聞きしたことがあります。

まだまだ勉強不足ですが、これからも素材に感謝し努力して作品作りを続けていきたいと思えます。ありがとうございます。

受賞によせて

女流工芸と出会い、随分永い月日が経ちました。若い頃に通っていたローケツ工房で見た経験した技法を基に、すこぶるマイペースで歩いて参りました作品作り。水仙のスケッチの中から心ひかれる少しのモチーフで構成してみました。ささやかではありますが今回も参加出来たと喜んでおりましたところ、この度の受賞のお知らせでびっくりいたしました。思いがけないごほうびを頂いたようです。気持ちがひきしまる思いです。ありがとうございます。

島田 京子



次回予告

第42回 埼玉女流工芸展

埼玉県立近代美術館

平成30年4月26日(木)～4月29日(日)

〈招待審査員プロフィール〉

(敬称略)

三田村 有 純

・東京藝術大学参与・名誉教授
・江戸蒔絵赤塚十代継承

岡田 篤 呉

・MOA美術館館長
・文化審議会専門委員

片山 ま び

・東京藝術大学美術学部芸術学科工芸史研究室教授
・東洋陶磁学会副常任委員長

各先生方のホームページをご覧ください。

平成29年度 新会員紹介

どうぞよろしくお願いいたします。



山口 素子
モザイク



遠藤 節子
人形



太田 公子
陶芸



小久保みどり
陶芸

定期総会 H29年7月4日

浦和コミュニティセンターにて、会員出席のもと、定期総会が開催されました。

編集後記

- 足先が冷える朝、スクワットを20回した後、パレリーナのような足の立ちポーズで背すじを伸ばしてみたら、ポカポカ暖かくなってきました。(K・S)
- ひとつだけ育てた蒟蒻芋を掘りあげました。長雨の秋で心配しました。金柑酒、ソルダム酒もそろそろで、やわらかな蒟蒻を肴にしたい紅葉のはじまりです。(M・K)
- 燃えるような紅葉で大自然の中にわくわくしながら身を置くそんな中会報誌が出来上がり感謝です(K・I)
- 今年は猫の手も借りたいほど忙しい1年でした。来年は戌年、ポチポチ行こう!(R・Y)
- ドラマ・陸王で見る行田の街は中々中々イケてます。今、水城公園の銀杏も色付く頃を迎えています。(N・S)
- 先日のMOA美術館行は、素敵に楽しい一日でした。無尽蔵に広がる秋を深く感じながら(M・E)
- 花壇にブロッコリー、ニンニク、春菊の芽が出ました。水仙・チューリップとの競演が楽しみです。(S・T)
- 毎日眺めているものが、時の移ろいに新鮮で元気の源だったり、ものづくりのアイデアのきっかけだったり…次回展の事がそろそろ気になります(T・T)



MOA美術館を訪ねて

H29年10月18日

芸術の秋をもとめて遠足気分熱海へ…
有志で訪れたMOA美術館、匠巻の構築美、所蔵の国宝。文化財を念む350点の収蔵品、開催中の企画展は選抜された工芸作家による「岡田茂吉賞展」を鑑賞しました。美術館での食事は秋の風情を取り入れた見事な和膳。

相模湾を見渡す高台に建つ「海に見える」美術館の中で至福の時を過ごしました。暮れなずむ熱海をあとにして、ひとりひとりが感動で胸を熱くし、「再び訪れたい美術館」として心に刻み帰路につきました。 広報



美のある生活

ART LIFE

女流工芸
ものづくり体験講座
11月9日 岩槻コミュニティセンター



作業工程

① アクセサリー

グラスを作りたい形にカットしてフェジングのりで仮止め電気炉で750度～850度の間で焼成。時間は焼成13分、除冷20分ぐらい、今回は電子レンジを利用して簡単な方法で作りました。

② 角形鏡

作りたいものをデザインして型紙を作り、それをガラスに転記しカットします。「コーパーテープ」を使い、組み合わせてハンダで合体し完成です。

余り体験する機会のない分野にチャレンジし新しい発見をする事が出来ました。

スタンドグラス講師 藤木節子 2部 井上多鶴子



■「文化振興のつどい」2018年2月3日(土)埼玉会館

■ With youさいたまフェスティバル2018年2月3日(土)～4日(日)



くりっぴ

陶芸と女流工芸と会計

陶芸を始めて30年、女流工芸の会員12年、会計のお手伝いをして5年、現在に至っております。陶芸も他の工芸と同じ様に難しいです。型・色・全体のバランスとオリジナルが大切と思っております。自分で考えた事を型にしていきたいと思っておりますが、考えている時は、すごい物ができる予定… 空想を型にしていきたい… 出来る事と出来ない事があります。そこを何とか頭と手でまとめていくが今だに見えず「すごい作品が出来る様に頭と身体の調子を見ながら進んでいきたいと思っております。

会計の仕事については、先輩のアドバイスと会員の方々の協力をいただきながらお役に立ちたいと思っております。

会計 大友幸子